

■第7回国立駅周辺まちづくり会議 記録（要旨）

日 時：平成24年8月18日（土）午後2時00分～午後4時00分

場 所：国立市公民館 地下1階 ホール

出席者（敬称略）：

会長	篠原 修	東京大学名誉教授／GS デザイン会議代表
委員	中井 祐	東京大学大学院工学系研究科教授
	鈴木直文	一橋大学大学院社会学研究科専任講師
	新井和雄	公募市民
	笠井 恵	公募市民
	関 堅	公募市民
	藤本 剛	公募市民
	内山健治	国立市商工会会長
	原田弘司	社団法人東京乗用旅客自動車協会広報委員会副委員長 銀星交通有限会社専務取締役
国立市長	佐藤一夫	

欠席者（敬称略）：

	羽藤英二	東京大学大学院工学系研究科准教授
	甲斐恒人	立川バス株式会社運輸部次長兼計画課長
	窪田 洋	京王電鉄バス株式会社営業部営業第一担当課長
（オブザーバー）	保科隆治	国立市商業協同組合理事長
（オブザーバー）	脇坂義祐	東京都北多摩北部建設事務所管理課長

事務局：国立市	都市振興部	部長	小澤宏康
	国立駅周辺まちづくり推進室	室長	門倉俊明
	同	係長	松平忠彦
	同	主事	馬場雅人
	同	主事	和田 賢

傍聴者 44名

【配付資料】

- ・次第
- ・資料1：検討部会の報告
- ・参考資料1：まち育て検討部会資料（第7回）
- ・参考資料2：景観検討部会資料（第3回）
- ・参考資料3：交通検討部会資料（第6回）

【開催内容】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告
 - 1) 各検討部会の報告
4. 議題
 - 1) 国立駅周辺まちづくりについて
5. 閉会

【議事要旨】

事務局：まち育て検討部会長と景観検討部会長から両部会での議論についてご説明をお願いします。

委員：事務局から出された高架下検討案については、これまでのまち育て検討部会の議論がうまく反映されているということで委員の意見が一致した。検討部会からはしょうがい者用トイレや他の施設の計画に対しても様々な意見が出ており、それらの意見が双方向のやりとりで計画に反映されていくことをお願いしたい。

また、施設完成後は市民でマネジメントしていければと考えている。市民の方々にはやる気があるので、それを実現していけることが望ましいと思っている。まち育て検討部会としてはA案B案どちらに決まったとしてもこういったことが実現していけるようにしたい。

委員：景観検討部会として話し合われた要点を2点ほど話したい。1つ目が北口、南口、高架下空間を一体で考えていくことが重要であるということである。回遊性を生み出すことや施設、空間同士の関係性をうまくつくることによって魅力的な空間をつくりだしていこうということだ。

2つ目が、「市」を開催するなど日常的に人が集まるにぎわいの空間を創出しようという考え方であり、この2点が前回景観検討部会の際、委員の間で共有されたと理解している。

また、前回の検討部会の中でA案B案についてどちらの考え方に共感するかという意見分布を聞いたところ、A案が3人、B案が0人、わからないという人が2人だった。

私はその意見に対して、これまで抱いてきた違和感についてお話をした。ある委員さんが、円形公園に入ればそこからの風景で国立の成り立ちや良さが非常によくわかるという意見を述べる一方で、守るべきもの、残すべきものとして円形公園はなるべくオリジナルな状態とすべきという意見、つまり日常的に入ることは重視しないという意見もあった。これらの意見を受けてお話ししたのが、それだけの素晴らしい場所に、国立市民や外から来た人が円形公園に入れるようにすることを考えなくて良いのかということである。この点に関してははっきりとした答えは出なかったがA案にしるB案にしる、円形公園の価値をなるべくパブリックに開き、入れるようにするかどうかということが1つのポイントなのではというお話をしたところで検討部会を終了した。

会長：これまでの事務局と部会長の報告に関して意見はないか。

委員：①東側高架下の案についてはJR 東日本と詰めた案という認識でよいか。

②商工会にはJR 東日本が高架下に店舗を募集するのであれば出店したいという話が来ている。JR 東日本にもそういう要望を伝えて欲しい。

③以前、高架下に北口の防災拠点してほしいという意見があったが、その件はどうなったか。考えていないのであれば検討してもらいたい。

④多目的トイレは国立市の利用部分に作る必要はないのではないかと。JR の敷地につくってもらおう方向でJR 東日本と交渉してもらいたい。

事務局：①まだJR 東日本と詰めた案ではない。高架下で国立市が利用できるとお伝えしている2500㎡の全てを駅直近で使うということではできないが、東側の高架下でも国立市としてある程度は確保したいと考えている中での検討案である。

②JR 東日本がどこに何を配置するという話は聞いていない。ただ、地元商店街等とも連携してほしいという話はしており、今後もしていきたい。

③まだ具体的なものではないが、バックヤード横の五角形の所を備蓄庫として活用することなども検討している。また、西側にも高架下があり、そちら側に

そういった機能を配置することも検討している。

④国立に住むしょうがい者のことを考えて、トイレについては国立市としても考えるのでJR東日本にも考えてもらいたいということで進めている。

会長：東側高架下の案はJRと折衝中のものなのか。

事務局：高架下の検討案の資料はHPにも載せているのでJR東日本も目にしてはいる筈だ。南北、東西の動線の確保についてもJR東日本と話をしている。

会長：北口駅前広場に関しては詳細を詰める必要があるものの、概ね固まったと理解している。一方、南口駅前広場はA案B案どちらの方向性がいいかを議論してきたがまとまってはいない。この会議は事業に関する決定権は無いと理解しており、最終的には市が決めることになるが、専門家や市民の意見をとりまとめて市に答申する役割を課せられていると思っている。これまでも話し合ってきたが、今日は北口南口の駅前広場、高架下を含めたあり方、使い方について一人ずつ意見を伺いたい。

委員：理想はA案の形で円形公園に入れることだが、交通処理の観点から円形公園への渡りが難しくなった時に、今すぐB案的に作るのではなく、A案的なつくりにしておいて、時代の流れに合わせて変えていけばいいと考える。

高架下はJR東日本、国立市、国分寺市との3つ巴で共存するのは難しい。気になっているのはバックヤードで、JR東日本の施設が大きくなるほど、施設とバックヤードが離れている計画は難しいと思う。一方、バックヤードとJR東日本の施設がつながると市の施設の一体感や回遊性が遮られてしまうので、その辺りをどうクリアするかが課題になる。また、先程委員から意見があったが、高架下の市行政サービス機能はもっと駅に近いところにあった方が良く、トイレはJR東日本の施設と一体として個数も増えたほうが良い。これらの点はJR東日本と継続的に交渉してほしい。

委員：どちらの案でも広い広場空間、賑わいの場を作ることが大事だと思うが、計画案の改良を前提としてB案を推したい。理想としては歩車共存できるトランジットモール的な空間にしたい。B案を推している理由としては広場空間をつくりたいからである。南口はそもそもコミュニティの中心として駅舎と駅前広場、円形公園が一体の空間としてつくられた。その空間がモータリゼーションによって失われてしまっており、失われた円形公園を取り戻したい。基本計画の森の駅構想というのは3・4・10号線を整備して駅前を広場に作る計画だったと思う。

また、議論されているA案B案の本質的な違いはシンメトリーか否かではなく、広場があるかないかであると考えており、この点について議論されるべきだ。

委員：南口が多く議論されがちだが、北口にも北口商店会のほか、西側や北大通りにも魅力的な店舗がある。それらが一体として国立を盛り上げていくという意味でも南北のつながりが非常に大切だ。東側高架下300㎡のつくり方については良いと思うが、JR東日本が駅側を使ってしまうというのは残念だ。地元の商店がJR東日本の施設部分に入るならば、その中心に市の利用部分が配置されてもいいのではないかと。今後JR東日本との交渉の中でその可能性を検討してもらいたい。

駅前広場の計画図は上から見たものになるが、駅を利用する際は歩行者の視点から見ている。円形公園は現在の状態では歩行者の視点からでは認識しづらい。また、円形公園がビューポイントになるという意見もあるように誰でも自由に行けるアクセシビリティがほしい。円形公園にくつろぎや憩いを求めるならば周辺に自動車を通行させたくはなく、ロータリー内に横断歩道があるというA案はロータリー機能を残したとも言えないのではないかと。それらを踏まえ

B案の方がよいと考えている。

委員：円形公園を守るという考え方については共有されていると思う。ただ、市長も言っていたとおりロータリーの機能を含めた円形公園でないと守ったことにはならない。B案もロータリー機能があるということになっているが、これは車が通れるだけでロータリーではない。

委員：国立市は財政的に厳しい。国立駅周辺まちづくりで一番問題なのは予算である。どれだけお金がかかるか、また市民の一人当たりの借金が増えることをどうするのか、そのツケが子どもや孫にいくということを考えると今回話し合われている計画についてはすべて反対である。ただ、高架化することで南北がつながることは重要だと感じている。できるところから計画を実行すべきと考えている。

交通事業者として次に大事なものは「安全」である。タクシー、バスで年間400万人を超える乗降人員を抱えておりその安全について考えている。旭通り、大学通り、富士見通りを道路として使っていくならロータリーは絶対必要であり、従ってA案が望ましい。

委員：商工会は森の駅構想への考えが減退した訳でない。森の駅公園は駅前2000㎡を確保することと円形公園を一体化する案である。A案でもロータリー内を公共交通のみにすれば円形公園に渡れるようにでき森の駅構想を実現できると考えているので支持する。

市長：皆様から大まかの方向性は感じる事ができた。自分自身様々な意味を持って熟慮しているが近々に表に出したいと考えている。特に、国立駅前の広場化だけでまちの広場機能が補われるとは思っていない。国立は街路樹などの緑あふれる空間をつくっている。一方、大学通りの歩道橋は時代とともに役割が失われつつあり、取り払うであるとか、大学通りと桜通りの一体化するために現状4車線のさくら通りを2車線にして自転車レーンをつくる、もしくは桜並木を保全するなど考えている。また、自分は谷保に生まれ、当時大学通りがまっすぐだったことを覚えている。いずれ来る富士見台第一団地の建て替えは大学通りを広幅員で伸ばす機会だと考えている。

皆様のご発言については真摯に受け止め決断し近いうちに発表したいと考えている。

委員：デザインの専門家としてはB案の方が面白くなると考えていたが、委員の皆さんの意見は必ずしもそうではなかった。一言で表すとB案は思想的、技術的にチャレンジであり、A案はコンサバティブな案だと思う。これはどちらが正しく、どちらが間違っているという話ではなく、どちらを選ぶかという問題である。専門的な観点からいくつか意見を言うと、円形公園の形を残すことと歴史を守るということがイコールと考えられがちだが、本来は円形公園と富士山、円形公園と大学通り、円形公園と駅舎といった関係が大事なものであって、円形公園の形や現在の空間の在り方が重要なのではないという意識は常に必要だと思う。

また、何年先を見据えるのかという話で、段階整備がうまくいくのかわからないが、今の形、もしくは現在この場所で話し合われている形が将来の子供たちの「国立」になるのだと思う。このように考えると機能としてロータリーが必要なかもしれないが、思想的には本当に目指すべきはそこではないのではないかとというのが感想である。

委員：何を大事にするのかという観点からは、殆どの方が円形公園に入るのはいいことだと思っているだろう。また、ほとんどの人は日常的に入れるようにしたいのではないかと感じている。段階整備という考え方はあるだろう。また、どち

らの案になったとしてもこれからの時代に合わせて改良していくステップの1つなのだと思うが、その一步を進めるチャンスが多くある訳ではない。今回どちらを選択するかということであれば、円形公園に日常的に入れるようにする方が良いと考える。

繰り返しになるが、市民の方々がつくるまちというものが魅力的だと考える。まち育て検討部会から報告があった「まちづくりの組織」についても検討を進めていきたいと考える。

会長：自分はまとめる立場なのでこれまで意見を言わないようにしてきたが、一段落ということで個人の感想として話したい。自分は国立には縁も所縁もないが、今までの仕事の実績を評価されて呼ばれたのだと思っている。駅と駅前広場の仕事は日向駅、高知駅、旭川駅とずいぶんやってきたが、その中で市や住民が1番頑張ったと感じるのは最も人口が少ない日向市だった。高知市が最もゆっくりしていたが、それは県庁所在地で県内にライバルがないからだったと思う。日向市は失敗したら街がつぶれてしまうという思いから頑張ったのだろう。個人的な感想として、国立は元々いいまちだから大丈夫だろうという意識が強いように感じた。

色々話したいこともあるが、本日の意見を聞いて1つだけ話すと、円形公園は市民にとって床の間なのだと感じた。つまり実際に使っている訳ではないけどなんとなく変えたくない、残しておきたい、飾っておきたいというものなのだと感じた。自分としてはもっと有効に空間を使ったほうが良いように思うが、国立市民にとってはそういうものなのだろうという感想だ。

本日はこれで終わりにしたいと思うが、市長も言っていたとおり会議は工事が終わるまで続けたい。今日の意見を聞いてもらってそれを材料に市長には考えてもらうことになる。これまでデザインといいながらあまり詳細については議論できなかったが、方向性が決まればその議論もできるようになる。

以上